

素材・製造

オーガニック素材強化

大正紡績

コットンは来年1000トン ウール、リネン加え

大正紡績はオーガニックコットンの扱いを強化する。09年はカンボジアなど輸入先を増やし、年間1000トンを計画、オーガニックのウール、リネンも加えた「オーガニック素材群」を増強する。また使用素材をオーガニックにするだけでなく、細番手、本糸、ムラ糸、各種複合糸や草木染め、ハニ（鉱物）染めなどを加え、糸での差別化も強める。

草木染めにも力

同社は今年、オーガニックコットンをアメリカ、トルコ、インド、ウガンダ、エジプトから輸入した。販売用途はインナー、ベビー衣料、紳士、婦人服から靴下、タオル、インテリア分野へと広がった。このため今年度上期、同社が生産する紡績糸は「30%強がオーガニックコットン使用

い」（野田和之社長）となり、さらに「10月は37%まで増えた」。

オーガニックコットンの需要は、今後も増加するとみられ、来年はカンボジア、ペルーからも輸入する。このうちカンボジアからの輸入は、コートン島で今年5月に作

付けした有機栽培綿。カンボジアでの綿作復活と、雇用創出を支援するNGO（非政府組織）のNSC（ネイチャー・セーフ・カンボジア）に協力し、収穫した綿花を同社が買い付けることになったもので、先頃4トンを輸入した。来年は25トンを予

定している。

輸入先を増やす一方、アメリカのスーパーマ棉、アルティメイトピマ（海島綿の一種）、インドのスピンゴルドなどオーガニックでも高級綿の比率を高め、多彩な種類を揃える。輸入量は今年の700トンから来年は1000トンになる予定。

オーガニック素材の幅も広げる。新たにオーストラリア・ニューサウスウェールズ州ティルパにある牧場で育てられたオーガニックウール、ベルギー・リール地方のオーガニックリネンを輸入、今後、シルクなども加える意向。

素材をオーガニック主体にしていく中で、細番手や本糸、ムラ糸、各種複合糸などを強化する。多色に染める紺染め糸「レインボーヤーン」、ハニ染め、ベンガラ染め「古色之美」、草木染め「洛陽染」などに力を入れ、糸での差別化も進める。洛陽染は繊維製品の安全性を保障する国際規格「エコテックス100」の認証を得た。